千代田まちづくり
サポート通信
2003年3月発行
No.9
編集・発行 (財)千代田区街づくり推進公社 企画情報課 東京都千代田区九段南1-6-17 千代田会館2階
TEL.03-3262-0211 FAX.03-3262-0213
公社ホームページ http://www.chiyoda-machidukuri.or.jp E-mail:kosha@chiyoda-machidukuri.or.jp

千代田の魅力探る20団体に助成金

江戸開府400年
400th ANNIVERSARY OF THE EDO SHOGUNATE

江戸開府400年記念支援事業 千代田まちづくりサポート公開審査会開く

住民・企業・NPOが一体となって 現状把握して住み良いまち目指す

千代田区街づくり推進公社が主催した第5回千代田まちづくりサポート公開審査会が2002年11月23日、日本大学で開かれた。過去最高の28団体が応募し、そのうち23団体が初めての参加だった。1年間にわたって調査・研究や活動したいテーマを熱を込めて発表した。2003年の「江戸開府400年」記念事業のひとつで、節目の年に、千代田区が抱える問題点や市民がより一層親しめるまちづくりを求めて、それぞれが絞り込んだテーマと課題をクローズアップした。また、冒頭に千代田区長のあいさつがあり、応募団体の積極的な活動への期待がよせられた。

発表内容から実を結ぶ可能性が高いと、審査委員10人全員の推薦を得た5団体のほか、申請通り最高額50万円の助成金を受け取った江戸神田蕎麦の会をはじめ、20団体に活動資金の助成が決定した。

石川 雅己
千代田区長

1番バッターとして登場した江戸神田蕎麦の会は、3年連続で、今回最後の助成金獲得を目指して熱弁を振った。この2年間、蕎麦を通じて親子や小学校教育の現場などでコミュニケーションを図ってきた実績に加え、今回は、さらに活動内容を深め、企業の協賛を得て、ビルの屋上を蕎麦畑にしてヒートアイランド対策に一役買おうという斬新な計画を打ち出して注目を浴びた。

ビルの空室化を問うグループやビル建設に伴う弊害を指摘し、開発業者と住民が協議会を設けて、暮らしやすく安全なまちづくりを探りたいという団体があったり、自動車が少なくなる休日の区内の道路でサイクリングをして魅力をアピールするマップづくりを目指すグループなど、どのグループも千代田区の特徴ある空間で、これからも暮らし続けるための提案のオンパレードだった。

助成金を受けた20団体は今、それぞれのテーマで調査や研究、活動に入っており、今秋の成果の発表が待たれる。

目 次

(頁)
〔審査委員〕 (2)
〔審査結果表〕 (2)
〔応募団体〕
◎江戸神田蕎麦の会 (2)
◎(NPO)学習環境デザイン工房 (3)
◎秋葉屋ドットコム (3)
◎花・風の会 (3)
◎子どもと一緒にデザインしよう会 (4)
◎千代田区こども110番連絡会 (4)
◎ACIプロジェクト (4)
◎コンバージョンハウス研究会 (5)
◎旧五十通り復興会 (5)
◎たまり場研究会 (5)
◎東京を自転車で走る会 (6)
◎神田スタイル研究会 (6)
◎さぽてん (6)
◎神田アキナイ会 (7)
◎岩本町1丁目街づくりネットワーク (7)
◎グループ法政 (7)
◎神田神保町 本やの会 (8)
◎(NPO)コミュニティビジネスサポートセンター (8)
◎行動するシンクタンクの会 (8)
◎G.E.L.C(ジェルシー:環境サークル) (9)
◎千代田コンバージョン研究チーム (9)
◎コマンドN (9)
◎東デ コラボレーションチーム (10)
◎共同建替えと地域を考える会 (10)
◎東京災害ボランティアネットワーク (10)
◎地域産業振興研究会 (11)
◎市井人・斎藤月岑に学ぶ会 (11)
◎コミュニティデザイン協議会 (11)
〔北沢 猛・審査会会長総評〕 (12)
〔賛助会員一覧〕 (12)

審査委員（敬称略）

会長
東京大学助教授
北沢　猛

副会長/千代田区文化協会
400年支援事業審査会
緒方 久子

副会長
電通総研主任研究員
平岩 千代子

NPO まちづくり情報センター
かながわ（アリスセンター）理事長
饗庭　伸

地域誌
編集人
山崎 範子

千代田区コミュニティ振興公社
評議員
山本　坦

江都天下祭研究会
神田倶楽部代表
田畑 秀二

番町出張所地区連合町会・
400年支援事業審査会
小林 武彦

岩本町東神田町会連合会・
400年支援事業審査会
鳥山 和茂

千代田区
まちづくり推進部長
渡辺　滋

審査結果表

発表順	グループ名	活動企画内容を支持し、今回のサポート助成が必要だと考える	活動企画内容についてもう少し話を聞き、今回のサポート助成が必要か判断したい	社会的に意義ある活動だが、サポートの助成趣旨になじみにくいと考える	今回の助成対象として推薦する	申請額（単位万円）	助成額（単位万円）
1	江戸神田蕎麦の会	★★★★★★★★★★			●●●●●●●●●●	50	50
2	NPO学習環境デザイン工房	★★★★	◆◆◆◆◆	▲	●●●●●●	50	26
3	秋葉屋ドットコム	★★★★★★★	◆◆◆		●●●●●●●	50	36
4	花・風の会	★★★★★★★★★★			●●●●●●●●●	50	37
5	子どもと一緒にデザインしよう会	★★★★★★★★★	◆		●●●●●●●●●●	30	30
6	千代田区こども110番連絡会	★★★★★★	◆◆◆	▲	●●●●●●●●●	50	32
7	ACIプロジェクト	★	◆◆◆◆◆◆◆◆◆		●●●●●●●	50	20
8	コンバージョンハウス研究会		◆◆◆◆◆	▲▲▲▲▲	●	50	—
9	旧五十通り復興会	★★	◆◆◆◆◆◆	▲▲	●●●●●	50	17
10	たまり場研究会	★	◆◆◆◆	▲▲▲▲▲	●	29	—
11	東京を自転車で走る会	★★★★★	◆◆◆◆◆		●●●●●●●●	50	29
12	神田スタイル研究会	★★★★	◆◆◆◆◆	▲	●●●●●	5	5
13	さぼてん	★★★★★	◆◆◆◆	▲	●●●●●●●	50	26
14	神田アキナイ会	★★★	◆◆◆◆	▲▲▲	●●●●	49.1	12
15	岩本町1丁目街づくりネットワーク	★★★★★★	◆◆◆◆		●●●●●●●●●●	45.2	29
16	グループ法政	★	◆◆	▲▲▲▲▲▲▲▲	●●	45	—
17	神田神保町 本やの会	★★★★★★★★	◆	▲	●●●●●●●●●	10	10
18	NPOコミュニティビジネスサポートセンター	★	◆◆◆◆	▲▲▲▲▲	●	50	—
19	行動するシンクタンクの会		◆◆	▲▲▲▲▲▲▲▲▲	●●	50	—
20	G.E.L.C（ジェルシー：環境サークル）	★★	◆◆◆◆◆◆	▲▲	●●●●●●●●	10	10
21	千代田コンバージョン研究チーム		◆◆◆◆◆◆	▲▲▲▲		50	—
22	コマンドN	★★★★★★★★	◆	▲	●●●●●●●●	50	38
23	東デ　コラボレーションチーム	★★★★★★★★	◆◆		●●●●●●●●●●	16	15
24	共同建替えと地域を考える会	★★	◆◆◆◆◆	▲▲▲	●●●●	50	15
25	東京災害ボランティアネットワーク	★	◆◆◆◆◆	▲▲▲▲	●●	50	—
26	地域産業振興研究会	★	◆◆◆◆	▲▲▲▲▲		50	—
27	市井人・斎藤月岑に学ぶ会	★★★★★★★★	◆◆		●●●●●●●●●●	50	45
28	コミュニティデザイン協議会	★	◆◆◆◆◆◆	▲▲▲	●●●●●	50	18

蕎麦の街神田で蕎麦を道具としての街づくり

江戸神田蕎麦の会【3回目】

毎年実施している区立小学校での手打ち蕎麦教室は発展させて、学校の週休2日制の土曜ふれあいスクールで、親子蕎麦教室となった。特に父親と蕎麦を打ち、親子で食べることで絆がより強まる。

同時に地元の長老の方に町の歴史や文化の話をしていただき教育の現場で、蕎麦によるコミュニケーションを図る。

次に、ご長寿の方や福祉施設などに蕎麦の宅配サービスを行う。蕎麦は伝統ある健康食なので、ぜひ蕎麦を打つところを見て召し上がって頂きたい。

また子どもたちのアイディアを募集して「こんな蕎麦食べたい、未来の蕎麦。僕は一日

蕎麦屋さんコンテスト」を実施。様々なアイディアで学校の枠を越えて、子ども、親双方の交流の場を作る。

蕎麦アートから蕎麦カルチャーへ、休日のそば屋の店内でカルチャースクールを開き、作品を店内に展示する。

環境問題、ヒートアイランド対策としては屋上緑化計画がある。神田のビルの屋上に蕎麦の種を蒔き、蕎麦粉を生産する。その粉で蕎麦を打ち、それを食べてふれあいながら問題を考える。

インターネット・ホームページの立ち上げにより神田蕎麦文化の広報活動。区民自主サークル蕎麦の実会、蕎麦研究会への支援活動。区の教養講座の解説と知識を広める努力をする。また長野蕎麦街道、山形蕎麦の会などとふれ合う。蕎麦を通して人と人、人とまち、まちとまちとの出合いをめざし、3年目の目標とする。

Q：大企業とはどんな協力をするのか？

A：福祉の宅配サービスや教育文化の活動でタイアップしていきたい。

〔緒方〕本物の蕎麦の味を子どもたちに伝え、蕎麦を介して親子で語り合うことや、福祉の活動へ輪を広げる意気込みにうたれた。神田産の蕎麦も期待する。

創造的な高齢者対象IT講習会と「千代田の昔のくらし」学習材の制作

NPO学習環境デザイン工房【2回目】

今年度は継続的な活動として、高齢者向けのIT講習会とインターネット学習会などを通し、千代田区のまちづくりを展開したい。意欲的な高齢者にそのスキルと機会を提供して、人づくりを通したまちづくりをイメージしている。

千代田区は特に住民の2割を高齢者が占め、価値観も多様化して、ボランティア活動をしたいという思いが高まっている。だがIT講習会で終わってしまい、パソコンを活動に活かせる場がなかった。場を設けて地域に還元していく。

ホームページ「千代田の昔のくらし」の製作。昨年作った冊子を元に拡充して、新たな冊子にしたり、CD-ROM化して学校に配り、もっと使ってもらう。事後サポートとしてファクシミリなどでやりとりすることも考えている。

Q：参加者はもっと多くできないのか？

A：パソコンが十数台なので10名にした。

Q：3回の講習会で、いきなりインターネットは飛躍があるのでは？継続性とはどういうことを考えているのか？

A：参加者は去年の方にして、ホームページも昨年の冊子を元にしている。共に作りながらサポートをしていきたい。

〔山本〕IT化に取り残される感じを持つ高齢者は多い。興味と意欲を引き出し、パソコンに親しむ絶好の企画。ネットの広がりを2年目の目標にしてほしい。継続性が生まれ、これぞ生涯学習的活動！

秋葉原グッズ商品化計画実行活動

秋葉屋ドットコム【2回目】

秋葉原が電化製品の街から新しい街へ変わってきているが、人の流れが滞っている。秋葉原グッズを作り、街のお土産物にしたい。デザイン学校の学生さんたちに電気部品で装飾品や置物をデザインしてもらい、絵コンテを作成、ハウスアキバで展示会を開いた。

今回はそれを完全に製品化して、秋葉原電気祭りの景品とする。電気街の人たちと共に、全国に広めることを目指し、総仕上げをしたい。それによって若い女性も楽しめるような魅力あるまちになればと思う。

Q：商品化するための予算が含まれていないようだが？

A：展示会で商品化を勧める企業の方もいたので、まちの活性化として協力を得たい。リサイクルのパソコンなどでコストダウンは可能と考えている。

Q：グループ外の協力者はいるのか？

A：工業デザイナーやデザイン会社などと、サポートの他のグループも声をかけてくれている。

〔山本〕かわいいハート型のブローチなどが

廃品の電気部品から生まれ変わるアイディアはすばらしい。循環型社会意識と部品の多様性の魅力を持つ商品を実用化してほしい。製作過程に高齢者や学生たちも加われば世代交流も生まれる。

花を通じて、やさしいまちづくり

花・風の会【2回目】

立派なホテルのすぐ側の歩道や空き地は吸殻とゴミの山。都の休眠地も清掃をして住民に喜ばれ、区が開放してくれた空き地は一年中四季の花で埋めた。大使館員など外国の人たちにも驚かれ、片言で会話がはずんだり。いつか民間としてヨーロッパにも行って、花の交流ができたら、などという夢が生まれた。

千代田区の整備されていない都の休眠地にも美しい花の種を蒔いたので、今後もさらにまちをきれいにしていきたいと思う。

Q：今年はどの辺をポイントにしてやる予定なのか？

A：児童公園などの花が植えられたまま枯れている。それを植え直していく。

Q：その付近の人には知らせるのか？

A：マイクで呼びかける。「花咲かじいさん」にも協力してもらい、地元の人にもどんどん手伝ってもらう。花を通じて、千代田区が変わったなあと言われるようにがんばりたい。

〔小林〕1年目を終え、自信と意気込みを感じる。地域への広がりも生まれたようだ。2年目に入り、大使館との交流などもあるようだが、1年目の延長に終わらず、より高い目標に向かってほしい。

「花咲かじいさん」との違いを鮮明にするのもよいのではないか。活動が区全体に広がることを期待する。

子どもと一緒に育てる千代田のまち

子どもと一緒にデザインしよう会【2回目】

子どもをとりまく環境を子どもと一緒にデザインしていくことで、人間らしい愛着のあるまちをつくり、育てていく。

現在、富士見小学校で、毎月第1、3土曜日に「僕たち友だちまちたっち」を実施。地域との継続的な関わりが必要と考えてワークショップを行っている。「まち探検」「まちカルタ」「まちすごろく」など。この活動を通して学校から声がかかり授業の中で総合的なまち学習に関わっている。

今回、子どもの参画による小学校づくり、まちづくりとして、子どもたちもまちの一員だという認識で、まちづくりに参画できないかと考え、そのきっかけづくりをする。話し合いの結果、子どもの新鮮な発想を活かすことが、持続的なまちづくりになると結論づけた。

イベントとしては、地域のお祭りに参画し、子どもとまちの関わりづくりをしている。神田三町会合同の子ども縁日、一番町祭りなど。また「未来のまちコンペ」として、小学校を中心に子どもたちが思い描く未来のまちのコンペをボランティアと行う予定。

私たちの姿勢としては、居場所づくりと共同体づくり、自己づくりという視点。デザインとは、共同体、居場所のデザイン、心のデザインを意識して行う。まちと学校の関係づくりに提案したいのは、学校とまちがお互いに関わりを持つことで、時間を超えた仲間としての、地域共生の学校を目指すということ。

また活動の自己評価も大切と気づき、参加した子どもたちの意識の変容を探り、報告書を作成することにした。

〔田畑〕 すばらしい展開で、2年目の今回の新しい案にも期待感が増す。今後は活動を広める手法を地域や学校、ＰＴＡなどと連携して進めてほしい。子どもたちのリーダー育成や、次期プロジェクトリーダーの発掘にも期待する。

こどもをまもる電脳まちづくり

千代田区こども110番連絡会【初】

千代田区内の学校に子どもを通わせている保護者のグループで、平成13年に区内8小学校のPTAと地域でこの会を結成。「子ども　110番の家」協力者とPTAボランティアとで子どもの安全確保を推進し、地域環境を向上させる。

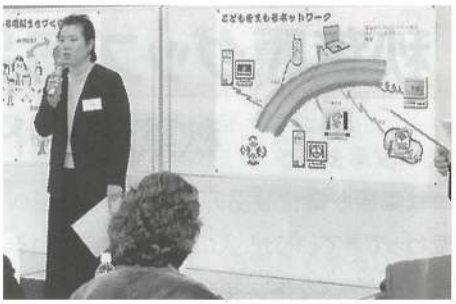
危険の情報をすばやく伝え、被害の発生を未然に防ぐ。ステッカーやポスターだけでなく、互いに連携を深め、顔が見えて挨拶のできるまちづくりをする。講習会を通して、全区的な情報化に貢献したいが、そのためにもＩＴ情報ネットワークが必要。メンテナンスはボランティアでやる。

子どもを守ることのできる生活環境を作ることが、よりよいまちづくり活動だと考えている。

Ｑ：PTAが中心だと子どもの卒業と共にメンバーが変わるのでは？

Ａ：なるべく卒業後も係われるよう、行政も窓口を開くよう働きかけ、支援体制で永続性を図る。緊急の場合は執行部で割り振る。

Ｑ：公立、私立合わせての組織なのか？



Ａ：そのように考えている。全区的活動にして、将来へもつなげたい。

〔緒方〕 子どもたちを見守る視線を太く確実にすることは早急な問題だ。現代ではより地域で子どもを守り育てる必要性がある。千代田は大きな村だとも思う。広いネットワーク構築を基に力を合わせて子どもたちの安全を図りたいものだ。

We Can!"C.A.N"～Chiyoda.Area.Network～

ACIプロジェクト【初】

私たちは法政大学の学生有志の集まりで、6月に飯田橋商店街の方たちと「飯田橋七夕フェスティバル」を行った。その際に、富士見児童館の子どもたちとも交流を持ち、更に12月には千両まつりにも参加した。活動の範囲を広げて、学生、行政、企業、地域住民などそれぞれのコミュニティ同士が交流するための架け橋になりたい。

また、業者間のつながりが弱いので、強めていく試みとして、企業の通勤者などとのコミュニケーションを図っていく。

まず地域の調査研究を行い、次に飯田橋地域のマップをつくり、地域住民からの意見も募集してホームページで公表する。

更にタウン誌などに掲載したい。それらを活かしたイベントを次年度には開きたいと思う。学生ならではの視点やアイディアを活かし、状況やニーズに敏感に対応しながら発想して、新しい産学連携を築いていきたいと考えている。

Ｑ：学生ならではのアイディアとは？

Ａ：行動が自由にでき、時間もとり易いので、柔軟な発想が生まれると思う。

Ｑ：卒業しても組織として継続して活動していくのか？

Ａ：新入生にバトンタッチして継続して活動するのは可能だと思っている。

Ｑ：具体的にどういう活動をするのか？

Ａ：学生を取り込むようなイベントを企画したいと考えている。

〔渡辺〕 先の展開が見えにくいが、地域との結びつきも意識され、他のグループとの連携など、将来性と捉えたい。願わくば、地域は単に調査研究の対象ではなく、関係づくりのフィールド。仲間づくりの核になるよう期待する。

コンバージョンハウスに関するワークショップ、シンポジウム等の活動

コンバージョンハウス研究会【初】

コンバージョンとは「用途変更」という意味で、空室の多い事務所ビルを居住空間に変えること。それにより建築の長寿命化と循環型社会のシステムに貢献したい。千代田区の住民を増やす結果ともなる。

実際に空室に悩む、特に中小のビルの個人オーナーなどに提案して勧める。千代田区の地場産業はビル経営といえる。「2003年問題」として大量のビルが供給されるので、需要の減少となり、ますますビルの空室化が起こる。

遊んでいる不動産をいかに動かすかを考えて、淡路町の事務所ビルをマンションに変えたのが1995年。そのためのワークショップとして、学識経験者、一級建築士、工事会社、経営コンサルタントなどを結集し、建築基準法、改修素材、低コストの工法などを研究、検討中。結果をシンポジウムで発表する。

ビルのオーナーたちに連絡し、行政へも提言していきたい。

Q：企業の仕事として成り立つのに、あえてサポートの活動でやる意義は?

A：事務所が居住空間に変換されれば、住民が増えるので、まちづくりになる。

Q：既に実績があるので、今更研究でもないように思うが、どうか?

A：実際にやると行政の手続きなどで矛盾点が出る。オーナーの声には切実なものがあるので、もっとオープンにして、大きな動きにしたいと思った。

〔饗庭〕この会は不動産や建築の実務家中心で、既に実績もある。なぜ支援が必要なのか説明不十分で、重要な問題だけに、まちづくりとしての課題設定が足りない。市民を巻き込み、創造的に展開していくような課題提起を期待する。

旧五十稲荷通り商店街の再興街づくり

旧五十通り復興会【初】

伏見稲荷を祭った五十通りが、昭和初期までは五日と十日に縁日が開かれ、今の新宿に匹敵するほど賑わった。町会の長老から江戸の三大縁日と言われたと聞いた。戦後復興とバブルの崩壊後寂れて五十通り自体を知る人もいない。

通りの反対側、神保町にはJ-CITYの33階建てのビル街が立つ。一車線しかないこの通りは昼は他道への抜け道と路上駐車場代わりになっている。この地域の歴史や伝統文化をなんとか保存し、復興したい。情報

誌を作って配付したりして地元意識を高め、通りに花を植えたり、まちの活性化を図りたい。

Q：場所はどの辺の通りなのか?

A：靖国通りと神田警察通りの間にある。

Q：神田周辺にはかなり歴史のある稲荷や神社がある。ここだけでなく広い地域と連携してはどうか。

A：できれば、この通りのことを知る人がいなくなる前にそうしたい。

Q：ワークショップなどの計画は地元との協賛ができるのか?

A：駐車場などを借りて日曜日のイベントなどを計画している。

〔山崎〕取り残された商店街に賑わいを取り戻すという考え方にひかれた。その地で商う人の意識向上が何よりまちを救うでしょう。波及効果のある活動で、実績のあるメンバーだけに「まずパンフレットを」という既存の手法にとらわれないアプローチがなされますように。

みんなが使える広場を神田駿河台で考えよう

たまり場研究会【初】

活気のあるまちをつくるのは、公共空間における人々の活動の豊かさを向上させることにあると考える。まちの中での人々の憩いの場所について、学生から社会人まで、幅広い多様な人々の集う神田駿河台を調

査する。このまちで生活する人たちはどこで休息するのか?学生や通勤者にアンケートを実施、学校や会社以外での食事や休憩の場所を集計したい。

また、公園や公開空地など、都市計画によって生まれた空間の利用状況を調べる予定。その結果を基に今後のあり方や将来性について整理する。

建築を学ぶ学生だが、学問上の都市計画としてだけでなく、幅広い視野で、今回の調査結果を小冊子、マップやリーフレットに作成し、地域の人々の役に立ちたいと思う。

Q：アイディアとしては分かるが、具体的に何をするのか?緊急性はあるか?

A：学生や会社員にどこで昼食をとってお茶を飲むか、できるだけ多くのアンケートをとる。それから日溜まりのある公園や空き地のマップを作る予定。

Q：地域との接触はどういう形で行うのか、説明がなかったがどうか?

A：現状ではまだ接触できていないが、外から来た人間の考え方を提案することで接触していきたい。

〔鳥山〕まちの表の機能だけでなく裏のゆとりの空間に着目したのはよいと思う。一見無駄に思えることが活かし方で愛着のわくまちにつながるだろう。夜間人口と昼間人口の落差の中で、ファクターの違う人々の接着剤の機能も加味した企画で再度のチャレンジを期待する。

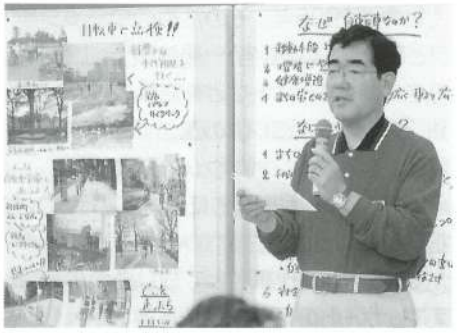
自転車で楽しむ千代田区のサイクリングマップづくり

東京を自転車で走る会【初】

都内各地をサイクリングしてタウンウォッチングを続け、環境問題や健康づくりに自転車を活かしたまちづくりが重要だと考えた。歩道や車道の実状、坂道の有無など走って見ると気づくことが多い。

当面、自転車で走るマップづくりをする。具体的には区内の子どもや住民に区外の人も含め、区内を隈なく回り、自転車で楽しめる場所の地図を作りたい。

歴史的な場所、皇居など緑の多い所、丸ビルなどの新しい名所などを自転車で回ることで、千代田区の魅力を見つけ出すのが狙い。自動車では見えない、歩いては限りがある、



自転車で走るからこそ見られる風景がある。

都心回帰を反映して住民も増えつつあるという。まちづくりと同時に、日祝日の自転車による都心観光を勧めることもできる。

そのためにはレンタサイクルの整備、きれいな駐輪場、安全なサイクリングロードなどの提案をしていきたい。

Q：サイクリングマップであれば、千代田区に限らなくてもよいのではないか？

A：むしろ千代田区の広さが自転車には手頃な範囲だと思う。マップは近辺を含めて作るつもりだ。

Q：レンタサイクルについての具体的な方法やアイディアはあるのか？

A：神保町に民間のレンタサイクルがある。次回以降で具体的な提案をしたい。

〔緒方〕休日の千代田は車が少なく、見慣れた道路が幅広く感じる。サイクリングロードができたらいいとは思うが大変なことだろう。1年目はマップづくりという案なので、楽しみにしている。

「職」「商」から考える神田ならではのまちづくり研究

神田スタイル研究会【初】

「スタイル」とは職人としてのライフスタイルであり、まちのスタイルでもある。神田で職人として暮らし、生業を営み、商売をしている者たちで、神田ならではのスタイルを見直し、わがまちの有り様を研究、検討、提言していく活動をする。

神田には電気街、古書店街、出版印刷、学校、スポーツ店、医療、繊維など様々な同業種関連業種が集積した個性的な「町」がある。集積には何らかのメリットがあったと思うが、その「町」ごとに「職」と「商」のスタイルがある。

その個性を活かすべく、「職」と「商」に携わる方々と共に、「神田」のあるべきスタイルを明らかにしていきたい。

NPO神田学会の会合や地元のつながりの中で知り合ったメンバーで、相談しながら活動していくつもりである。

Q：申請額がかなり謙虚だが、実際にヒアリングなどこれで可能なのか？

A：現段階ではコピー代などが主なので次年度に今後の展開で考えていく。

Q：どんなメンバーに加わって欲しいのか、どうやって集めるのか、また、どう具体的に提言するのか？

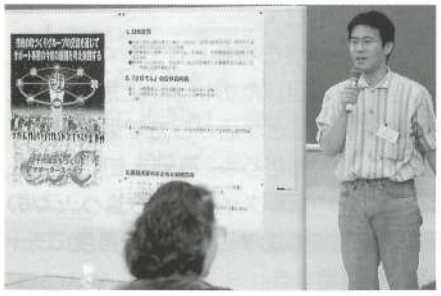
A：NPO神田学会、神田市場研究会、祭りと自治研究会などの方に加わっていただく。また問題を抱えている町会の方などに提言をと考えている。

〔饗庭〕地域の人のつながりをベースに「神田学会」など、先行する活動とも十分な関係がある。「はじめの一歩」としての可能性を評価。が、「怖いもの知らず」の大胆さに欠ける嫌いがある。異種の人材が交流するサポートの良さを活かして活動してほしい。

市民のまちづくりグループの交流を通じてサポート事業の今後の展開を考え、実践する

さぽてん【初】

千代田まちづくりサポーターズクラブを母体とする、プロジェクトチームとして活動する。様々なまちづくり活動をしている「まちづくりの草の根サポーター」が集う「天国」（交流会）である。



基本姿勢は、活動を通じて人、団体が知り合う、なるべく広く交流する。区内外、企業間、公社、行政の方も含めて呼びかける。中間発表会に合わせて、引き続き交流会を開く。

イベントだけでなく、その過程をホームページに載せ、発信する。最終的には提言、報告書、記録集としてまとめたい。

Q：サポートのサポート事業として、その広がりの効果とは何か？

A：最終的には、市民が立ち上げるまちづくりの土台、土俵となる。

Q：サポートとは別に、市民活動のネットワークづくりを目標とするのか？

A：あくまでも千代田のサポート事業を中心としたまちづくりの市民活動が目標。

Q：なぜ、他の地域との交流が必要か？サポート以外のグループとの交流は？

A：他グループとの交流はあるし、お誘いもする。なぜ他の地域もかというと、中間発表会が寂しいので、もっと参加者を増やしたいと思った。

〔平岩〕千代田まちづくりサポートの助成を受けたＯＢで作った「サポーターズクラブ」を母体に、一般市民や市民団体との交流を図ることを目的とする活動。助成を受ける側も主体的、積極的に事業運営に関わろうとする姿勢は「協働」を具体化するモデルとして注目すべきだ。ただしサポート事業の活性化が真の目的で、交流もそのプロセスと位置づけた活動の展開を期待する。

神田発「まち再生」の展望の序～空き地・空きビル・空きオフィス＋商い実態の歩き調べ～

神田アキナイ会【初】

目指すは「空き」のない、「飽きない」まちの再生、育成。魅力あるまちとは、「住みたい」「働きたい」「行って見たい」まちである。そのために、住民、企業、行政、それぞれの立場で何をすべきかを神田から提言し、発信していく。

2003年問題があり、まちの衰退を心配する声がある。まちの活性化対策が必要とされ、まず現状分析の必要性がある。

1年目には神田のまちの生態を明らかにするためにまちづくりマップを作る。通り、店舗、住宅、それらを一軒づつ回って足で歩き、空き地や空きビル、空き室の有無などを調べてまとめる。

2年目に、その地図を基に神田のまちの傾向、特徴を明らかにし、問題があればその社会的影響を調べる。

Q：まちの調査をするというが、具体的に人脈などがかなり必要だと思うが？

A：直接のヒアリングなどは無理なので暗くなった時間帯に平日、ビルの窓の点灯の有無で空き室か否かを調べる。

Q：具体的に問題点を想定しているか？

A：大きな通りのオフィスと細い通りのオフィスは性質が違う。貸室が供給過多になった時に空き室はどういう出方をするか、その辺を調べたい。

Q：まちは歴史の積み上げでできているから、それも含めて調べてほしい。

〔鳥山〕江戸は幕府の意向で町割を造った（武家地、青物市場、火除け地と限定）。場所も時代毎に変化する。歴史を含めた視点（流れ）での研究、その中から町の進むべき方向が見えるはず。地元の長老や研究家に話を伺い、実態調査と併せた研究、その成果を期待する。

歴史、伝統文化と再生都市の発展的共生

岩本町1丁目街づくりネットワーク【初】

まちに根づいた歴史、文化、伝統を次世代へつなげる住みよい環境を創出し、活気あふれるまちづくりを行う。

現在、都市再開発に伴うビルやワンルーム・マンションの建設が増えている。新築工事のトラックの運行、騒音、駐車などによる安全が問題となる。就学、未就学児童、老人なども多く、交通の安全についても、何らかの対策が必要。

今後も、日照、電波障害、ゴミ問題などが生じてくると考えられ、町内会の役員や有志で、マンション建設協議会を設立。定例会として毎週1回、当該ゼネコン、デベロッパーと協議している。

反対のための協議会ではなく、工事の工程表などを提示してもらい、管理規約には町会の要求などを提言し、綿密に打ち合せて、話し合いながら進めている。

江戸開府400年祭に向けて、町会の寄付の収集にも苦慮する。住民と企業が協力する積極的なまちづくりのモデルケースとなるべく活動したい。

Q：私の町会でも1件、問題が起きているので、ぜひ参考になるケースとして、資料を作ってほしい。

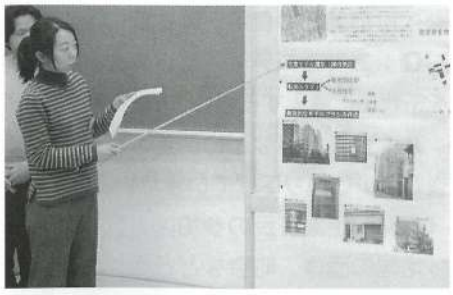
Q：助成を必要とするのはなぜか？

A：これまでは有志のカンパでやってきたが、活動の経緯を情報公開するには、公の会としての方がやりやすい。また資料づくりには費用がかかるためだ。

〔饗庭〕都心の「光」と「影」のエリアの間で、中間的なエリアの実質的な都市再生のモデルとして期待される。困難さはあるが、このような活動に参画することで、デベロッパーも回復したといわれるようなモデルを作ってほしい。

都心における職住融合のスタディ

グループ法政【初】



近年、神田地区ではオフィスの空室化が目立ち、一方、丸の内などの大型オフィスの増設が、それに拍車をかけると心配される。ＩＴ時代にふさわしいSO-HOなどを視野に、事務所ビルへ居住機能を付加する模索がこの問題の一つの解答となる。同時に都心部の居住回復に多少とも寄与すると考える。

まずJR神田駅周辺のオフィスの空室を調査。約4分の1の空室を確認した。商店とオフィスの混在したビルから、ケーススタディモデルにふさわしい空室例を選定する。半居住型オフィスの法制面と税制面での可能性を検討。専用居住型の求められる法的基準を基に、必要条件や適応要素を探る。それを踏まえて具体的プランや模型を作成する。

以上の活動をこの1年をかけて実施していきたい。

Q：なぜこの地域を選んだのか？地元とのつながりは？学習会はオープンか？

A：地元の方々とのつながりはまだないが、学習会は、法政大の先生方に依頼して公開講座を検討中。

Q：大学の先生へ講師謝礼はいるのか？

A：いずれ、できれば学外の先生にもお願いする予定なので、予算をとった。

Q：学習会は何をいつやるのか？地域とのつながりがないのに、どうやって空室調査やモデル選定などができるのか？

A：地元の町会や千代田区の方に紹介していただければと思う。

〔山崎〕活動内容がメンバーの研究に止まり、まちへの還元が見えてこない。まちを活動の場とする時、住み働く人の目線は不可欠。協力者や場を得て再応募を。

本の町　神保町の活性化

神田神保町 本やの会【初】

本の町神保町の地盤沈下がいわれ、事実、住民も減少し、集客数も落ちている。危機感を持ち、何かできないかと書店などで働く者の有志で活動を始めた。

地元の人からは温かく見られ、関連の紙の販売業の方なども協力してくれた。まず神保町の町並みの様子を知ってもらおうと、ここで働く人や生活する人しか知らない情報を載せた地図を作成。

このまちの魅力を地元ならではの視点でアピールしたかったので、「神保町路地裏MAP」を無料で配付した。飲食店やお店の人物についても載せ、好評だった（3回発行）。手弁当でやっていたが、資金不足で中止している。

地元の方や商店街の方との交流も生まれ、知らない方からも手紙や声をかけていただいた。「新しい版はいつ？」と聞かれ、期待に応えたいと思い応募した。

Q：売ることも考えてはどうか？

A：自由な立場で無理なく活動したいので広告も入れたくない。売るとすれば、代金の換金が大変だと思う。

Q：サポートは3年間だが継続するのか、4年後はどう考えているか？

A：3年間は必ず出すが、4年後は、4年後に考えてみる。

〔鳥山〕 申告額は活動に制約のない最低限の金額。活動は地元有志で既に3回発行の実績がある。肩肘張らず、安易な結果を求めず、自分たちのペースで継続する力を感じた。まちの魅力が表面的にしか見えない時代に、このようなグループが数多く生まれることを切に願う。

東京、神田地区において成立するコミュニティビジネスの研究

NPO コミュニティビジネスサポートセンター【初】

地域に根づいて貢献し、活動する団体や事業体をコミュニティビジネスと呼ぶ。その活動をサポートするセンターで、今までは区外の事業をサポートしてきた。事務所が千代田区にあるので、地元で活動したいと思い応募した。

まず神田にふさわしいコミュニティビジネスが何かを研究する。改めて驚いたのは住民の数が少なく、昼夜の人口差が極めて大きいこと。住人や働く人に必要とされるもの、望むものを作っていかないとまちは衰退する。それは何か、研究会をして資料を基に地域の人と話し合う。学生さんにも呼びかけ、千代田らしいビジネスモデルを作る。その報告書を作成、広報誌などでＰＲし、やりたい人を募集して講習会も開く。その人たちに起業してもらうことを目標とする。

Q：区内に事務所があるなら、地元に足をつけてしっかりやってほしい。

Q：1年間で起業までやるのか？千代田らしさとは何か？

A：千代田で働きたい人を集めて、いろんなプランを考え、起業までやりたい。

Q：何が目的なのか？ビジネスモデルか、コミュニティビジネスの起業か？サポートか？人口の増加を図るのか？

A：最終目的は人材育成とコミュニティを地域に根づかせること。

〔渡辺〕 テーマ自体は大変有意義だが、サポート事業としての位置づけが分かりにくかった。ビジネスモデルや起業アドバイスは「まちづくり」と結びつきにくい。それが地域活性化とどうつながるのか、具体的提案がほしい。

「内発型まちづくり活動」に対する支援のあり方と主体的取り組みに関する基礎的調査研究

行動するシンクタンクの会【初】

千代田区企業市民の一員として、まちづくりの担い手になりたい。具体的には特にコミュニティビジネスなど、地域活動を強力に支援する社会システムの構築を目指す。メンバーが日常の業務で知りえた暗黙知を、本調査活動に活用する認識知とすることを図っている。

ニーズに合わせ、適切な情報を提供、発信する。まず、活動資金の確保を考える。まちづくり活動に貸し付ける神戸のコミュニティ・クレジットの事例把握、秋葉原のリナックスカフェの事例調査などを実施した。

区内の低未利用空間の把握と考察。他のまちづくり活動家との交流を図り、起業活動の可能性も探りたい。

Q：交通費の予算が多いが、それは千代田区にどう還元するのか？

A：神戸、大分・別府のまちづくり活動へ現地調査の費用。報告書の形で公表。

Q：コミュニティ・クレジットの事例を千代田に導入する場合、問題の把握は？

A：金融機関などの調査は困難で、今後もう少し掘り下げていきたい。

〔小林〕 企業区民の参加は貴重。もう少し地域の団体、町会などと具体的な話があれば良いのだが。既に実績もあり、政策提案、中小企業センター、区商連などと接触すれば、新しい展開が開けると思う。今後の活動を期待する。

マイバックの普及によってゴミ減量！

G.E.L.C（ジェルシー:環境サークル）【初】

メンバーは上智大学の環境サークルの学生。都内23区のゴミは最終的に東京湾の埋め立て処分場に運ばれる。最後の処分場といわれるが、その限界が迫っている。環境に配慮した生活が自然にできるシステムを作ることが狙いである。

まず無駄なレジ袋をなくしてマイバッグを普及させてゴミを減らす。現状把握のため実際に処分場を見学する。大学近辺を中心に千代田区内のスーパーやコンビニでレジ袋の使用状況を調べる。すでにノーレジ袋運動を進めている商店街にインタビューする。

イベントではフリーマーケットを開き、マイバッグ持参の参加者にエコポイントをつける。エコポイントの実施でゴミを減らせたデータもあるので、環境配慮型商品と交換できるシステムにする。

江戸開府400年でもあり、限られた資源を有効に使うことで成り立っていた江戸の社会に学ぶ。以上の活動の報告書を作り、商店街にも、マイバッグ使用促進の提案をする。

Q：都の環境学習資料もあるので参考に。チェーンストアにも呼びかけてはどうか。

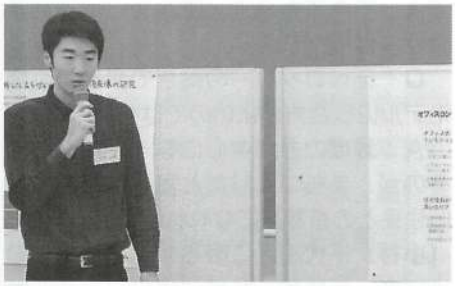
Q：フリーマーケットを開く意味は？

A：エコポイントのシステムを通して、マイバッグを促進し、運動を広めたい。

〔山本〕環境問題には様々な切り口があるが、日常生活に密着するMy Bagからスタートして、資源再利用可能な循環型社会を目指したい。環境問題は長いスパンで結果が出る。焦らずに活動を続けて下さい。「マイ弁当箱キャンペーン」などもあるようだ。活動成果に期待する。

コンバージョンを利用したまちづくりの可能性と将来像の研究

千代田コンバージョン研究チーム【初】



従来の環境負荷やコストの高い建て替え「スクラップ＆ビルド」ではなく、必要な改造をして新しい用途の建物に再生させるコンバージョンで、供給過剰のオフィスビルの空室率を下げる。

オフィス2003年問題に象徴される空室化と、一方で都心居住への回帰という流れがある。コンバージョンによりオフィスと住居を兼ねたビルにすることで、まちに必要な機能や街並みを整え、快適で美しいまちづくりの可能性と将来像を探り、提案する。

事業として成り立つには、オフィスと住宅の賃料の格差(1対3)をなくす必要がある。オフィスビルが集中している千代田区も自治体としても考えるべき問題なので、選定エリア内の模型や成果発表の資料などを提供していきたい。

Q：選定エリアの概念を説明してほしい。西麻布の資料があるが、なぜ千代田区の問題なのか？

A：賃料格差の生まれる原因は、オフィス街で地盤沈下した場合と住宅街としての需要が高い場合。実際にエリアでの開発によって変わる姿を提示するために参考資料として添えた。

Q：持ち出し金額が多いのはなぜか？

A：一応、社会人なので自腹を覚悟した。

〔平岩〕オフィス供給過剰の「2003年問題」への方策として既存建物の用途変更「コンバージョン」で再生する提案。問題意識は理解できるが、活動対象エリアが確定していないのに予定の活動内容は盛りだくさんで、実現性に疑問を感じた。なぜ千代田か、何を独自性ある成果とするか、しっかり再検討して下さい。

地域におけるアート活動とまちづくりについて

コマンドN【初】

過去3回にわたり秋葉原電気街において、地域の人と協同で国際シティビデオインスタレーション「秋葉原ＴＶ」を開催した。まちの魅力を引き出した社会実験的なアートプロジェクトだった。

今回は、その第3回「秋葉原ＴＶ」のドキュメントＤＶＤの製作とその配付についての助成申請。これは秋葉原の電気街にあるモニター1000台を使い、電気店の人にスイッチを押してもらい、ビデオアートを上映するという試み。難しいのは、1000台のモニターをネットワーク化することで、4年かかった。

その成果は特にまちの人たちに評価されて交流が生まれたことにも現れている。その過程を記録映画として、まちづくりの「地域におけるアート活動」としてＤＶＤに残したい。日本文化の中でのある特徴的な出来事として記録したい。

Q：既に評価された活動を整理して記録するのもよいが、活動の次の展開は？

A：夏に、日本橋川、神田川をつかった市民参加型のアートプロジェクトを企画している。きれいな川を取り戻したい。

〔平岩〕本事業への助成申請は初めてだが、「秋葉原TV」など千代田区を拠点とするアート活動の実績は特筆すべきものがある。その成果をDVDで出版し、地域におけるアート活動を考える機会を提供する提案。グループ独自の成果とするだけでなく、地域に還元し、共有財産にするという志に大いに期待する。

1年後の成果発表会には「DVD 出版により、地域にもたらした影響や変化について」ぜひ聞かせて下さい。

高齢者にむけての若者からの新しいデザインの提案

東デ コラボレーションチーム【初】

東京デザイナー学院の学生有志が集まり、学外活動として、高齢者との交流をデザインすることになった。高齢者センターのお楽しみ会に出席したことがきっかけで、高齢者と学生のミックス・ファッションショーを企画した（1月）。

千代田区も高齢者が多いが、高齢者向けのファッションは実用一点ばりの物が開発される傾向にある。もっと高齢者のための物があってもよいと思った。

それにはいろんな世代が関わり、お互いのデザインに興味をもってもらう必要がある。そのデザインセンスの良さをこれからの製作活動にも活かしたい。

これまでの活動で、高齢者のお顔を色紙に描いてあげて喜ばれたり、一人暮らしの高齢者がとても楽しかったと言ってくれた。ファッションショーの後も、別のデザインの切り口で、高齢者と関わっていきたい。

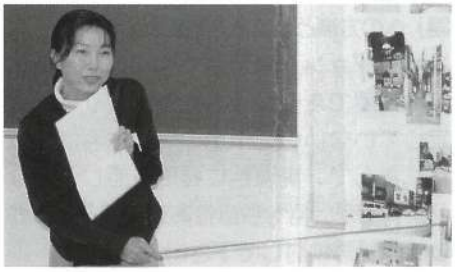
2月には高齢者のための千代田のマップ作り、9月は高齢者センターのイベントにデザイナーとして関わる。その宣伝のチラシを作り、お楽しみ会に向けての作品も作る予定。今後も来年の1年生にこの活動を伝えて続けていく。

〔山崎〕 この1月に高齢者と若者の合同のファッションショーが実現した。学生たちが区の高齢者センターと協力して新しいデザイン市場へ進出という、まさに目から鱗の落ちる活動。デザイン・高齢者というキーワードも、それをビジネスにつなげるという挑戦も、都心という地域性が存分に役立つと思う。歳を経た者のセンスの良さが若い感覚を刺激するような、双方向の関係を作って下さい。

屋上とコミュニティルームの活用を軸とする地域コミュニティの再生

共同建替えと地域を考える会【初】

NPO都市住宅とまちづくり研究会で、家屋の老朽化に伴う共同建替えの研究をしている。神田須田町2丁目共同建替え協議会を設立。建築計画が着工の運びとなった。地権者の方が別の町の住民だったり、複雑な権利関係などはあるが、ともかく分譲マンションとして多数の新住民が生まれる。



実際に、同じ地域（町）に住みながら居住者同士、お互いの顔を知らず、全く交流がないことも多い。そこで、地権者、住民、町会など地域の人とマンションの屋上や地下のコミュニティルームでコミュニティの再生を図りたい。

Q：分譲マンションの場合、セキュリティを重視すると警備上閉鎖的になる。地域に解放されたコミュニティルームとは、どういう形で実現するのか？

A：居住者のみでなく、屋上や地下に外から階段を通って行くという構造。地域にも解放しようと考えている。そのことを公開した上で販売する。

Q：新住民と地域の人たちが話し合うチャンスはあるのか？

A：それを作りたい。そこを承知の上で入ってきてもらう。関係者には提案は受け入れられている。

Q：デベロッパーの働きでやるようなモデルにした方がよいのではないか？

A：地域の方が中心になって提案をするのが、まちづくりだと思う。新住民と旧住民との接着剤になればよい。

〔小林〕 千代田区に限らずマンションの地権者、新住民、地域住民のコミュニティをいかに創るか、問題を抱えている。他の所の参考になる活動にしてほしい。コーポラティブハウス的な考えを入れたり、独自性を盛り込めれば活動は長いものになる。頑張って下さい。

防災まちづくり

東京災害ボランティアーネットワーク【初】

避けられない必ず来るであろう災害、その時、人の命が守れるか？まちづくりは人がいなければできない。まず人が生き残れるか？生き残れたとしても、生活が守れるか？それをテーマにして活動している。

今回、千代田区の活動として、その日のために誰にでもできることから始める。一つは、1月17日、阪神淡路大震災。神戸だけでなく全国で記念行事が行われる。千代田区でも「1.17　灯りのつどい」を開催したい。区民、学校関係者、ボランティア団体と共に、災害防災対策の一助とするためである。

行政や企業の方にも参加していただいて、楽しみながら体験できる防災市民講座を開きたい。地域を少し限定した形で行いたい。

Q：何をサポート事業でやりたいのか？

A：資金がないので、広域のネットワークが地域の中で活動する必要があると感じたので応募した。

〔田畑〕 イベントの開催で人的ネットワークを構築することには賛同できるが、千代田区内の企業や地域が率先してやらないと意味がない。まず、そこから始めてほしかった。区民は地区の連合町会などで消防署・消防団の協力で防災訓練を行っている。地域、企業、行政、学校関係者との連携は困難であるのが現状。楽しみながら体験できる防災市民講座は、町会などにぜひ取り入れたい企画である。

秋葉原地区における産業構成実態調査

地域産業振興研究会【初】

まず秋葉原地区の産業構成実態調査を行う。この地区は家電製品販売店の集積から電子部品・製品販売店、ソフトウエア開発業などのＩＴ関連業集積に変わりつつある。産業集積の内部で産業構成を調査研究して、業種、業態、企業間取引などを明らかにする。

産業集積の構造を把握することによりまちづくりの基礎資料蓄積に貢献する。

前半では地域企業を調査訪問して、地域コミュニティの活性化のあり方について実態に基づいて調査する。

後半は、その調査結果を基に、調査を経営者などに絞り、経営理念、将来性展望などのアンケートを行う。

中間、最終の各報告書を作成し、まとめることで秋葉原地域のコミュニティ活性化や産業振興に貢献できると考える。

Q：秋葉原地区とはどこまでなのか？

A：それも調査して決定したい。

Q：長野県、山梨県などの調査の実績は？

A：報告書は会社やホームページに発表した。

Q：報告書は誰に読んでほしいのか？

A：秋葉原に興味を持つすべての人に。

〔平岩〕秋葉原地区の産業構成実態調査を計画する政治経済学部の学生グループ。若いエネルギーは感じるが、残念ながら「何のために調査したいか」が不明だった。調査は報告書作成が目的ではなく、その結果を何にどう活かしたいか、問題意識を明確にするのが重要。「報告書を誰に読んでもらいたいか、そのためにはどんな内容にするべきか」を充分話し合い、調査設計することが必要だ。

江戸神田の文化人・斎藤月岑を顕彰し、その偉業をまちづくりに活かす

市井人（まちびと）・斎藤月岑（げっしん）に学ぶ会【初】

江戸神田を代表する文化人・斎藤月岑の残した『類聚撰要』（60巻）が、伊勢神宮文庫、都立中央図書館、国会図書館に分冊所蔵されている。江戸町方のタウンマネジメントの記録であり、近世神田の地域情報の宝庫である。

この月岑について、東京大学資料室や国会図書館において資料収集を行い、まちづくり文庫「月岑文庫」を開設したい。広く研究者にこの資料を公開し、同時に全60巻を神田再生まちづくり基礎資料として現代語表記に翻刻出版したい。

また、月岑の偉業を讃えるために、2004年には生誕200年を記念して顕彰碑を建立する。その実現のために月岑研究会を開き、公開古文書基礎講座も定期的に開設する。

Q：資料に「近代都市計画に行き詰まりを感じて」とあるが、どういう意味か？

A：システムと人とが一体化せず、ハードと中身が調和していないような計画。

〔田畑〕埋もれていた資料や文書を掘り起こし、現代文に訳すという地道な活動だと思う。その多くの資料の中には、江戸時代の生活様式が見える文章が随所にあると伺えた。もっと地域の人を巻き込みながら、地域財産として公開し、一般の人にも見ることができる資料に作り上げてほしい。

サウンドコミュニティプロジェクト（Sound Community Project）=SCP

コミュニティデザイン協議会【初】

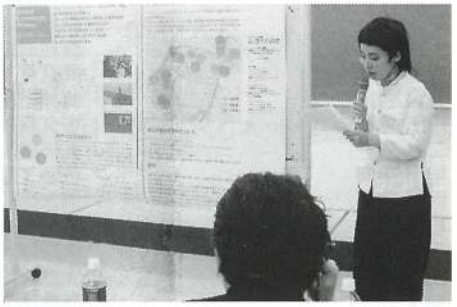
今回のプロジェクトの目的は、音や声を媒介にコミュニティの再発見をして、特徴を明らかにすること。SCP では音の情報も視覚情報以上に大切と考え、研ぎ澄まされた耳で、生活の中で漏れた音や聴覚を取り戻す試みをした。

それによりコミュニティの認識を促し、発見した身近なテーマについて学ぶ。具体的には、主に地域の小、中学生を対象にワークショップ型アーカイブを行う。これは音の採集と採集された音を聞く装置の製作や、音のデータベースの構築などで構成される。

まず千代田区内で日常的な音や声を録音して、地域の人たちのインタビューも加える。次に集めた音をどう伝えるかを考えて編集し、デバイスを製作する。それを地域の学校、児童館、まちづくりイベントなどで公表し、まちの音を聞いてもらう。またその経過をインターネット上に収録し、世界中の人に届ける。

地域貢献としてはまちや人との新たなコミュニケーションのきっかけ、社会に対する好奇心の向上、地域や人に対して理解や関心を高める。一つの地域で継続して行うことがより大切だ。

Q：既に台北や仙台でなされているのに、なぜまた千代田でやるのか？



A：まだ子どもたちが創るまでに、充分ではなかったので挑戦したい。

〔渡辺〕まちやコミュニティが持つ特徴を「音と声」で認識させるという提案は興味深い。特に子どもたちが自分たちのまちを自分の感性で捉え、すばらしさを見つけてくれたらと思う。サポート事業のまちづくりにどうつながるか、そこを意識して活動してほしい。

会長総評

グループ間の協働活動に期待

北沢　猛 会長（東京大学助教授）

28グループの様々なアイディア、ありがとうございました。きょうの雰囲気は、第1回のサポート公開審査会と似ていました。第1回の時は、当然、全グループが初めてでした。今回は、1年目、2年目から引き続きのグループが5グループと少なかったので、緊張した新鮮な感じがあったかと思います。新しい顔が多くなって、熱気ある、斬新なアイディアと活動の発表が続き、みなさまの拍手を聞きながら、私も今後に大変期待が持てました。

まず、サポートの対象となったグループですが、これはサポート事業の基本として支援は3年間という期限がついておりますので、3年間のプログラムを頭に浮かべながら活動を始められていると思います。そこでさらに3年後のグループの姿というものを少し自分たちでイメージして、サポートの支援が終わっても、自立して活動していっていただきたいと思います。

審査会の議論のなかで、やはり経済的な問題についての話がかなり出ました。ＮＰＯの資金とは、市民活動において非常に重要な課題です。よく考えてほしいと思います。

また、平岩副会長からお話があったように、千代田区の行政も、ずいぶん流れが変わりました。もちろんこれまでのみなさんの活動の力にもよるものですが、行政も市民活動と積極的にタイアップしていこうという姿勢になったのです。

きょうは区長さんがこの会に出席してくださいましたが、実は第5回目で初めてのことで、これまではちょっと寂しい感じでした。お話では、これからは<民>の力というものを行政も尊重していかないといけない、ということでした。

ですから、今後はより積極的にみなさんの活動と行政とを結び付けていくことを考えていただきたいと思います。その点、公社も、区役所も、同じ視点、考え方を持っていただけるものと思います。

もう1つ重要なことは、みなさんのグループの間のネットワークです。同じような活動を協働で行っていくという話がありました。やはり1つのグループだけでやるよりは、2つ、3つのグループが力を合わせて活動する方が、さらに大きな力が出せるわけです。活動しながら、他のグループと連絡を取り合って、進めていってほしいと思います。

それについても、区長さんから、区としてもバックアップしますというお話がありました。実はこの会が始まる前に、我々審査委員と区長さんで話し合いました。まだ金額は決まっていないのですが、この事業を続けるについて、少し援助したいとのことでした。

この事業の発表会なども、もっと多くの方に聞いていただきたいのですが、資金がなくて思うようにできませんでした。みなさんのネットワークをつくるにしても、中間発表のやり方にしても、例年、あまりお金がなくて力をかけられず、うまくアピールできなかったのです。もっとみなさんの活動や発表がうまくいくように、われわれも考えていきたいと思います。

ですから、みなさんの活動や問題についても、ご相談や提案などがありましたら、ホームページでも何でも結構ですので、ぜひお寄せ下さい。それぞれの力を集めて、この一年、楽しく頑張っていっていただきたいと思います。

残念ながら今回は選にもれた方も、この活動にぜひ参加して共にスタートしてほしいと考えています。そうすれば、また来年の審査会に必ず応募していただけるでしょう。きょうは、ほんとうに長い時間、ありがとうございました。

（財）千代田区街づくり推進公社賛助会員一覧（法人93社・個人63名　計156）

2003年2月1日現在

※この事業は下記の法人会員と個人会員の会費で運営されています

賛助会員名簿（個人）

青木 孝次
安孫子 政夫
伊東 敏雄
犬伏 真
今堀 信明
角地 登志子
加藤 武夫
川原 くに子
島田 洋一
鈴木 勉
須藤 昭雄
東宮 哲哉
戸田 豊重
二木 憲一
早川 平典
堀部 剛正
松谷 優子
三輪 瑛子
山内 秀男
渡邊 和
他41人

賛助会員名簿（法人）

〈保険関係〉
あいおい損害保険㈱
太陽生命保険相互会社
日本興亜損害保険㈱

〈金融関係〉
㈱あさひ銀行
興産信用金庫
太陽信用金庫神田支店
㈱大和銀行
㈱東京都民銀行神田支店
㈱東京三菱銀行
㈱東日本銀行飯田橋支店
みずほアセット信託銀行㈱
㈱わかしお銀行本店営業

〈建築・土木関係〉
大木建設㈱
㈱大林組東京本社
大林道路㈱関東支店
鹿島建設㈱東京支店
鹿島道路㈱
㈱久保工
㈱熊谷組東京支店
古久根建設㈱
五洋建設㈱
佐藤工業㈱
清水建設㈱東京支店地域営業部
㈱銭高組東京支社
大末建設㈱
大成建設㈱
高砂熱学工業㈱東京本店
㈱竹中工務店
中央建設㈱
鉄建建設㈱
東京舗装工業㈱関東第一支店
東洋建設㈱建築事業本部
常磐工業㈱
戸田建設㈱東京支店
飛島建設㈱関東土木支店
飛島道路㈱関東支店
長野建設㈱東京本社
㈱ナカノコーポレーション
西松建設㈱
日東みらい建設㈱
㈱間組東京支店
前田建設工業㈱
真柄建設㈱東京支店
㈱増岡組東京支店
三井建設㈱

〈不動産関係〉
協永不動産㈱
㈱共立エステート
住友不動産㈱
㈱大京
大日本企業㈱
三井不動産㈱
三菱地所㈱
森トラスト㈱
安田不動産㈱

〈建設設計〉
㈱アーバン・ウイング
㈱アーバントラフィックエンジニアリング
㈱アール・アイ・エー
㈱アイテック計画
㈱ADプロジェクト
エヌティティ都市開発㈱
㈱エルイー創造研究所
㈱関東設計
㈱楠山設計
太平工業㈱東京支店
NPO都市住宅とまちづくり研究会
㈱都市環境計画研究所
日本橋興業㈱
㈱日立建設設計
㈱ポリテック・エイディディ
㈱松田平田設計
マト設計・コンサル㈱
㈱山下設計
㈱ラウム計画設計研究所

〈ビル管理〉
鹿島建物総合管理㈱
東京美化㈱
本州ビル・メインテナンス㈱

〈広告代理業〉
㈱イサミヤ

〈緑花・環境関係〉
日産緑化㈱

〈コンサルタント〉
㈱エコプラン
㈱都市デザインシステム
パシフィックコンサルタンツ㈱

〈駐車場管理〉
㈱総合駐車場コンサルタント（東京事務所）

〈電機・通信関係〉
三洋電機㈱

〈その他〉
秋葉原商店街振興組合
秋葉原中央通商店街振興組合
秋葉原西口商店街振興組合
新日本監査法人
神保町一丁目南部地区市街地再開発組合
東京高速道路㈱
（社）東京都建築士事務所協会
㈱東京読売サービス
フィールファイン㈱
ヨシモトポール㈱

制作/（有）サンシープランニング